

@新教育総合研究会:児童養護施設の高校生に進学支援 無償で学習指導 /大阪

毎日新聞 2014年05月15日 地方版

関西地方を中心に「個別指導キャンパス」などの教室名で約180カ所の学習塾を展開する「新教育総合研究会」（大阪市北区）が今春、児童養護施設の高校生に無償で勉強を教える取り組みを始めた。施設の入所者を巡っては、学力と経済力の両面で大学進学が難しいことが問題とされ、学習塾の社会貢献活動として注目される。福盛訓之社長（40）は「意欲がある子たちに進学の特典をつかんでほしい」と話している。【大久保昂】

4月24日の夕刻。吹田市にある個別指導キャンパスの教室で、同市内の児童養護施設で暮らす高校生の男子生徒が机に向かい、数学の問題を解いていた。今春から週1回通って指導を受けている。「勉強しやすいし、先生たちが分かりやすく教えてくれる」。大学に入り、将来はパソコンを使う仕事に就くのが目標だという。

男子生徒が暮らす施設では、ほとんどの小中学生が塾通いをする一方、高校生は塾に行くことはできなかった。中学校までの塾代は国と府が負担するが、高校生になると打ち切られるためだ。施設内の自室で勉強することになるが、個室ではないため、周りの子のことが気になって集中できないこともあるという。施設を運営する社会福祉法人の理事長は「塾に行けば、学校や施設とは違う友達もできる。社会性を身に着けるといふ観点でもメリットがあり、大変ありがたい」と話す。

現在、個別指導キャンパスで受け入れている施設入所者は男子生徒も含めて2人。福盛社長は「今後は拡大も検討したい」と話す。

厚生労働省によると、2012年度に高校を卒業した児童養護施設入所者の大学や専門学校などへの進学率は22.6%で、全体平均（76.9%）を大きく下回っている。全国の約600カ所の児童養護施設でつくる「全国児童養護施設協議会」の武藤素明副会長は「虐待などで勉強できる環境になかった子の中にも、本来は力を持っている子が多い。学習塾の協力が広がってくれば」と話している。

=====

■ことば

◇児童養護施設

児童福祉法に基づき、親の死や虐待などにより家庭で養育が困難な子供たちが生活する。2歳からおおむね18歳が対象。全国にある約600の施設に入所している子供の総数は約2万9000人に上る。